

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32515

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380890

研究課題名(和文) 教職課程の学生のためのソーシャルスキル教育の開発

研究課題名(英文) Development of social skill education for undergraduates in teacher training courses

研究代表者

原田 恵理子 (HARADA, Eriko)

東京情報大学・総合情報学部・准教授

研究者番号：20623961

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、第1に小学校・中学校・高等学校・大学の教員が教職課程の学生に求める社会性・対人関係能力に関して明らかにすること、第2にソーシャルスキル教育の効果を考察することである。教職課程の学生に対するソーシャルスキル教育の必要性は小学校・中学校・高等学校が高く、ソーシャルスキル教育をする必要があるとした。また、ソーシャルスキル教育は学生に一定の教育効果があった。以上の知見をもとに教育体制と教育的示唆を議論した。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on clarifying the social and interpersonal relationship skills of undergraduates in teacher training courses and discusses the effect of social skills education on them. Results showed that undergraduates who are in the teacher training courses need to learn the social and interpersonal skills in elementary, junior high and high schools. Based on the above findings, the educational system in Japan is discussed and suggestions for the field of education are presented.

研究分野：教育心理学

キーワード：ソーシャルスキル 大学生 教職課程 ソーシャルスキル教育 社会性 対人関係能力

1. 研究開始当初の背景

教職課程の学生にソーシャルスキル教育 (SSE) は必要なのか。人間関係の営みの中で展開される教育において、近年、教員の資質の問題が取り上げられ、豊かなコミュニケーション能力は教師にとって欠かせない資質とされている (中央教育審議会答申, 2012)。近年、SSE が実践されている一方、教師は指導者としての立場があるにもかかわらず、教師のソーシャルスキル及び SSE を直接問う教職課程の科目はない。教職課程の学生のソーシャルスキルの低下が指摘されているなか、そのスキルの獲得の必要性やそのための教育が必要か等、教職課程の学生に対する基礎的研究は不足し、また、SSE においては効果的な教育の在り方や定着のためにはプログラムや視聴覚教材の開発と同時に、大学教員が理解するための研修ビデオの作成が求められ、SSE をどの年次に、どの科目で指導すべきかをも検討する必要がある。

したがって本研究では、SSE のニーズに関する基礎的研究と SSE の教材開発と実践及び教育体制に関する応用的研究を行う。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第 1 に SSE のニーズに関する実態を探ること、第 2 に教職課程の学生による SSE の実践の効果と教育を考察することである。

3. 研究の方法

8 つの研究を行った。第 1 の目的のために、小中高の教員及び大学教員に対して 2 つの調査を行った。本研究では、教職課程の学生のソーシャルに関する認識や SSE の必要性、また、大学教員を対象に、学生に対する社会性の認識と教育の実態、SSE のニーズに関する質問紙調査を行った。続いて第 2 の目的のために、教職課程の学生を対象に 6 つの研究を行った。具体的には、教職課程の学生が行う中学・高校での SSE によりどのような教育効果があったか、また SSE を通じた教育方法及び教育体制について検討した。

4. 研究成果

(1) 研究 1

小中高の教員 1,145 名を対象に、教職課程の学生に求める社会性・対人関係能力において調査し、学生は大学で社会性や対人関係能力を養成する必要があるか、学生にどのような社会性や対人関係能力を身に付けてほしいとのか、SSE を学ぶ必要とスキルの獲得について調査した。その結果、教師になる前に、初歩的スキルを中心としたソーシャルスキルを身に付け、同時に社会性教育ができるよう教職課程で教育する必要性が示唆された。

(2) 研究 2

教員養成に携わる大学教員 26 名を対象に、ソーシャルスキルの実態とその教育及びニーズについて検討した。その結果、社会性の

低下よりネット社会における複雑な人間関係による経験・体験の不足によりスキルが不足と考える傾向にあり、挨拶、聞く、質問する、自分の意見や考えをはっきりと伝えるといったスキルを身につけさせたいと考えていた。また、教職課程の授業や行事でコミュニケーションのワークやロールプレイ等を積極的に行っているが組織的に教育を行っていない傾向にあることが明らかとなった。

(3) 研究 3~4

教職課程の学生が生徒の社会性を指導する心理教育を実施するためのスキルの獲得と自身の社会性の向上を目指すために SSE の授業に参加し、どのような効果があるのかについて検証した。

研究 3 では予備研究として聴く、感情のコントロールといったターゲットスキルを含む SSE を高校 1 年生の道徳の時間に、教職課程の学生を授業者あるいは支援者 (TA) にして 5 回行った。参加した学生は 4 年生男子 3 名で教師のソーシャルスキル自己評定尺度 (相川, 2011)、自尊心尺度 (星野, 1970) を測定した。実践にむけて「道徳教育論」の中で SSE の理論と指導案作成、「教育相談論」で支援方法を学んだ後、授業準備として授業前に授業のねらい、流れとスキルのポイントの確認、当日は授業全体の最終確認、モデリングのリハーサル、教員との事前打ち合わせを、授業後は振り返りと次回授業の打ち合わせを行った。その結果、ソーシャルスキルと自尊心の得点が上昇し一定の教育効果があることが示唆された。続く研究 4 では、教師、教師と TA、学生の 3 形態の授業者が実践する授業者の違いによる SSE の効果について検討した。その結果、実践前後の生徒の社会性の変化率はクラスによる差はないことが認められた。つまり、授業者の違いによる SSE は効果に差がないことが明らかとなった。つまり、授業者の違いによる SSE の効果に差がみられなかったことから、事前事後の教育や研修を受けることで教職課程の学生であっても教師と同様に授業が展開できる可能性があると考えられた。実施回数と維持等に課題は残ったが、教職課程の学生が実施する SSE は、事前事後の教育の在り方が重要となり、SSE を通じてスキルを精練されていく可能性があることも推測された。

(4) 研究 5~8

研究 3~4 を踏まえて、SSE プログラムを修正し、研究 5~6 では高校生と中学生を対象に SSE を行うことによる教育効果と教育体制について検討した。研究 5 は情報モラルを含む SSE を高校 1 年生 8 クラスで道徳の時間に授業者あるいは支援者 (TA) として 5 回行った。参加した学生は 3・4 年生 6 名で、実践にむけた準備は研究 3 と同様に行った。その結果、ソーシャルスキルが向上し、職業観意識の向上が明らかとなった。研究 6 では中学生 19 名を対象に学生 4 年生 1 名が授業者として総合的な学習の時間に SSE を行った。授

業までの準備は研究5と同様であるが、加えて、学生が学校と打ち合わせて指導案を作成後、教材作成及び模擬授業といった授業準備も行った。その結果、ソーシャルスキルが向上し、道徳教育や心理教育の意義を深め、教員への強い志望とともに職業意識が高められることが明らかとなった。続く研究7では、SSEから学生は何を学んだか、またSSEの在り方を検討するため、研究3~6を踏まえて9名の学生に調査を行った。その結果、これらの学びを通して、個人の成長及び教師のスキルの獲得がSSEにより促進された。教職課程の科目や自主勉強会等で理論を学んでから授業に臨むことは効果的な授業に結び付くとし、教師とともに行う授業により同僚性の意義を学び、教師志望やSSEの実施への意識が高まることが明らかとなった。そして研究8では、学校での実習の意義や教育の在り方を探るため、SSEと一緒にいった教員9名を対象に調査を行った。その結果、SSEの実施は生徒に教育効果があり、同時に生徒のソーシャルスキルを客観的に捉え直すことができ、大学との協働で展開する効果的な授業であると教師はSSEを肯定的に評価した。同時に、教師自身にも意識変容がみられた。つまり、SSEの実施は学校で実施できる社会性教育の一助になることが考えられ、教職課程においても有意義な実習となる可能性が示唆された。

(5)まとめと今後の課題

本研究の目的は、第1にSSEのニーズに関する実態を探ること、第2に教職課程の学生によるSSEの実践の効果と教育を考察することであった。

小中高の教員は、教職課程の学生は初歩的スキルを中心としたソーシャルスキルを身に付け、社会性教育ができるためにもSSEのスキルを獲得する必要があるという傾向が示された。同様に、大学教員も社会性を高める必要があるとし、積極的に教職課程で教育に取り組んでいたが、組織的な教育がなされていない傾向にあることから、その教育の在り方を検討する必要性が示唆された。

そして、理論と指導案作成を学ぶ道徳教育論、支援方法を学ぶ教育相談論で理論と体験を得て実施方法を学んだ後、演習として学校で実際の授業に参加することを通じた教職課程で行う教育は、学生自身のソーシャルスキルの向上とSSEの実践のためのスキルが身につくことが示唆された。なかでも、授業前後の準備と職員との打ち合わせは、大学での学びを実践と往還させることでより学びが深まったことが推測された。学生がSSEに参加することにより、一層、教師への職業意識が高まり、同僚性に基づく研鑽の姿勢に対する意識変容も示された。また、学生とともにSSEの授業をすることは教師にとっても成長につながり、授業自体に対して概ね肯定的な評価であったことから地域和学校と連携した学習体制を構築できる可能性が示唆さ

れた。

一方、本研究では、学校でのSSEに参加していない学生に対する大学の授業だけの教育効果を検証するにはいたらなかった。また、大学における教育では、学校とのコーディネート、あるいはだれがどのようにSSEを教えるのかまでは検討できなかった。本研究の取り組みは大学と学校の協働による「チームとしての学校」につながる可能性を含んでいることから、これらが今後の課題として残されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

{雑誌論文}(計6件)

1. 原田恵理子・渡辺弥生 2015 教職課程の学生に求められるソーシャルスキル, 教育実践研究, 19, 1-12. (査読有)

2. 原田恵理子 2015 教職実践演習において学生は何を学んだのか - ロールプレイ, 事例研究, フィールドワークを通して - 東京情報大学教職課程年報, 1, 28 - 35. (査読無)

3. 原田恵理子 2015 東京情報大学における教員養成の意義と教育体系の充実 東京情報大学教職課程年報, 1, 3 - 11. (査読無)

4. 原田恵理子 2015 東京情報大学における「教職実践演習」の実施上の工夫と課題 ~ 「系統的・体系的学び」についての工夫 2014年度第3研究部会(教職カリキュラム)報告書, 12 - 13. (査読無)

5. 原田恵理子 2014 学年全体を対象としたソーシャルスキルトレーニングの効果の検討東京情報大学紀要, 17 (2), 1 - 11. (査読有)

6. 原田恵理子 2014 「教職実践演習」の実践と課題 2013年度第3研究部会(教職カリキュラム) 報告書, 34 - 35. (査読無)

{学会発表}(計12件)

1. Eriko Harada, Yayoi Watanabe 2016 Social skills training including education on information technology ethics ICP2016/日本心理学会(YOKOHAMA). PS28A-09-22, P. 99.

2. 原田恵理子 2016 道徳教育における情報モラル教育の取組について-コミュニケーション力を高める心理教育の実践 - 全国私立大学教職課程研究連絡協議会 第36回研究大会, P.32. 京都精華大学.

3. 原田恵理子・渡辺弥生 2015 教職志望学生によるSSTの効果 日本心理学会第56回

総会, P.762.名古屋大学

4. 小泉令三(企画)・原田恵理子(企画)・山田洋平・江村理奈・渡辺弥生 大学生のキャリア教育としての社会的能力育成 教職志望者へのアプローチ 2015 日本教育心理学会第56回総会, pp.52 - 53.新潟大学.

5. 武田明典・小柴孝子・原田恵理子・竹内和雄・富田幸子・青山郁子・河村茂雄・嶋崎政男 2015 生徒のLINE利用の課題と解決: - 心理教育の実践から - 日本教育心理学会第56回総会, pp.22 - 23. 新潟大学.

6. 原田恵理子・渡辺弥生 2015 SSTに参加した教職課程の学生は何を学ぶのか 日本教育心理学会第57回総会, pp.726.新潟大学.

7. 原田恵理子・渡辺弥生 2014 高校における総合的な学習の時間・特別活動をつなぐ包括的 SST 日本教育心理学会第56回総会 pp.270. 神戸大学.

8. 原田恵理子・渡辺弥生・藤枝静暁・本田真大・江村理奈・相川充 2014 指導者となる学生に求められるソーシャルスキルとその養成のあり方とは? 日本心理学会大学(同志社大学),SS(44)神戸大学(採択)(自主シンポジウム)

9. 原田恵理子・渡辺弥生 2014 教師志望学生への SST 実践の試み 日本心理学会第78回大会, pp.1174. 同志社大学.

10. 原田恵理子・渡辺弥生 2014 授業者の違いによる SST の効果 - 担任, 担任と教職課程学生 TA, 教職課程学生の3形態の比較検討を通して - 日本発達心理学会第25回大会論文集, p529 .京都大学

11. 原田恵理子・星雄一郎・渡辺弥生・佐野和規・齊藤敦子・江村理奈 2013 ソーシャルスキルトレーニングを実践するための環境づくりとは 日本教育心理学会第55回総会(法政大学) p.S92.(自主シンポジウム)

12. 原田恵理子・矢代幸子 2013 ネットいじめの予防を目的としたソーシャルスキルトレーニング 日本教育心理学会第55回総会(法政大学) pp.464.

〔図書〕(計3件)

1. 渡辺弥生・原田恵理子(編) 2016 中学生・高校生のためのソーシャルスキル・トレーニング 明治図書出版, pp.11-14.

2. 原田恵理子・森山賢一(編) 2015 ICTを活用した新しい情報教育, 北樹出版 pp3-4, pp.103-104, pp.105 - 120.

3. 神野建・原田恵理子・森山賢一 2015 基礎基本シリーズ 最新 進路指導論 大学教育出版, pp.45 - 62, pp.63 - 87, pp.88 - 89)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

原田恵理子(HARADA, Eriko)
東京情報大学・総合情報学部・准教授
研究者番号: 20623961

(2) 研究分担者

渡辺 弥生(WATANABE, Yayoi)
法政大学・文学部・教授
研究者番号: 00210956